

# 親の動機づけスタイル、動機づけ支援と 子どもの自律的動機づけの関連 (中間報告)

愛知教育大学 伊藤 崇 達

## The relationships among parents' motivational styles, motivational supports, and children's autonomous motivation

Aichi University of Education ITO, Takamichi

### 問題と目的

動機づけの問題は、これまで、外発的-内発的動機づけの二項対立の図式によって捉えられることが多かった。しかし、近年、動機づけを一次元上の連続体で捉えようとする理論が提唱されるようになってきている。自己決定理論 (Ryan & Deci, 2000) によれば、外発的動機づけは、自律性 (自己決定性) の程度に従い、外的調整、取り入的調整、同一化的調整、統合的調整の各段階に区分され、外的調整から内発的動機づけに至るまで、一次元上の両極をなすことが想定されている。

子どもの成長・発達という観点からみれば、動機づけが自律的なものとなっていくことを周りが支えていく必要がある。親や教師などの信頼できる他者からの働きかけによって、子どもの学習動機づけは自律性を高めていくものと考えられている (速水, 1998)。Grolnick & Ryan (1989) は、小学生の親が、子どもに対し、しつけを通してどのように動機づけをしているかについて調べている。「自律性支援」「関与」「構造」の3つの次元が取り上げられ、学業達成や社会的適応との関連について検討している。「自律性支援」とは、①子どもの自律性を重んじていることを伝え、その促進を見守ること、②理由づけ、励まし、共感によって動機づけをすること、③問題解決などに子どもも含めること、「関与」とは、①子どもの生活について知っていること、②1週間の中で子どもと過ごす時間、③子どもに温かく肯定的な感情を向けること、「構造」とは、①子どもの生活上のきまりや、親の期待をはっきりと示すこと、②規則や期待を一貫して示し促進すること、以上のような内容をもとに検討がなされている。結果として、母親と父親の「自律性支援」の高さと母親の「関与」の高さが、高い学業成績と結びついていることが明らかにされている。Grolnick, Ryan, & Deci (1991) の研究でも、小学生を対象に、母親と父親の「自律性支援」と「関与」の高さが、子どもの自律性の感覚と結びついていることが明らかにされている。

本研究においても、子どもの自律的動機づけを促す親による働きかけとして、「自律性支援」「関与」を取り上げることにする。「関与」については、Grolnick & Ryan (1989) などは、上述したような内容を想定しているが、親密で信頼できる人間関係があってはじめて外からの働きかけが力をもつといった指摘がある (例えば、速水, 1998) ことから、そうした側面からの詳細な検討も求められるで

あろう。ここでは、愛情によって受け入れられる関係にあるかを「温かさ」として定義し、これを含めて影響関係についての検討を行うことにする。

ところで、自律的学習のあり方は、欧米では「自己調整学習 (Self-Regulated Learning)」として理論化が図られている (Zimmerman & Schunk, 2001; Schunk & Zimmerman, 2008)。自己調整学習に関する研究では、認知行動論の流れを汲む理論や知見が力をもっており、発達論に基づく検証は十分とはいえない。親とのかかわりが子どもの自己調整学習をいかに支えているかを明らかにすることは重要な研究テーマといえる。自己調整学習の理論では、動機づけとともに、学習方略や学習環境のあり方が重視されている。本研究においては、子どもの学習方略や学習環境を構成するような支援のあり方を「学習支援」とし、子どもの自律的動機づけとの関連について検討を試みる。

以上のような親による「自律性支援」「関与」「温かさ」「学習支援」の4つの側面に加えて、親自身がそもそもどのような動機づけのスタイル (自律-他律) をもっているかについても注目しておく必要があるだろう。Wild & Enzle (2002) は、社会的伝播理論 (social contagion) を提唱し、教授者もつ動機づけが、学習者の期待を介し、学習者自身の動機づけに影響を与えることを明らかにしている。教師の動機づけのスタイルを取り上げた研究は、いくつか散見されるようになってきているが、親についても、特定の傾向の動機づけスタイルが、子どもに対して同様の影響を及ぼすものであるかどうか、検証を進める必要がある。親の役割に焦点をあてた動機づけ研究では、動機づけの内在化プロセスにおいて、親の特性そのものが重要な規定因になっていることが示唆されている (Pomerantz, Grolnick, & Price, 2005)。このことから、親の動機づけスタイルに着目した検討が求められる。

従って、本研究においては、「自律性支援」「関与」「温かさ」「学習支援」の4つの側面の動機づけ支援に加えて、母親と父親の動機づけスタイル (自律的動機づけ) を取り上げ、子どもの自律的動機づけとの関連について検討を行うことで、動機づけの自律化における親→子どもの媒介過程について明らかにすることを目的とする。

## 方 法

### 調査協力者

愛知県内の4年制大学 (国立大学1校、私立大学2校) に在籍する1年生から4年生までの学部学生284名 (男子82名、女子201名、不明1名) に対して調査の協力を求めた。平均年齢は20.47歳、標準偏差は1.03であり、年齢の範囲は18歳から22歳であった。

### 調査内容

1. 子どもの自律的動機づけ 速水・田畑・吉田 (1996) や岡田・中谷 (2006) の項目内容をもとに表現上の修正を行い、「外的調整」「取り入的調整」「同一化的調整」「内発的動機づけ」の各3項目、計12項目を作成した。高校時代にどのような理由で学習に取り組んでいたかについて「まったくあ

てはまらない (1点)」「あてはまらない (2点)」「どちらかといえばあてはまらない (3点)」「どちらかといえばあてはまる (4点)」「あてはまる (5点)」「非常によくあてはまる (6点)」の6件法で回答を求めた。

**2. 親の自律的動機づけ** 上記の計12項目を用い、母親と父親の自律的動機づけのあり方について回答を求めた。回答方法、得点化の方法についても上記とすべて同様であった。

**3. 親による動機づけ支援** Robbins (1994) は、大学生を対象に、親による「自律性支援」「関与」「温かさ」に関する尺度を作成している。桜井 (2003) も、大学生に対し、親からの「自律性援助」に関する尺度を作成している。これらの項目をもとにして「自律性支援」「関与」「温かさ」の各3項目を作成した。また、子どもの学習方略や学習環境を構成するような支援の側面として「学習支援」について尋ねる3項目を作成した。回答方法、得点化の方法は、上記と同様であった。

以上の項目内容を付録に示しておく。

## 調査時期及び手続き

2008年12月から2009年1月にかけて上記の内容を含む調査を実施した。大学での講義の時間の中で一斉に質問紙の配布を行い、インフォームド・コンセントを得た上で回答を求めた。実施に要した時間は20分程度であった。

## 結果と考察

### 1. 親と子どもの自律的動機づけに関する検討

自己決定理論では、「外的調整」「取り入れの調整」「同一化的調整」「内発的動機づけ」のそれぞれの動機づけが、自律性の観点から次元の連続体上に並ぶものと考えられている (Ryan & Deci, 2000)。表1から表3に示すように、子ども、母親、父親のいずれの結果に関しても、近い位置関係にある動機づけの間には正の相関がみられており、シンプレックス構造をなしていることが確認できた。

表1 子どもにおける4種類の動機づけの間の相関係数

	外的	取り入れ	同一化	内発的
外的調整	—	.24 **	.00	-.10 †
取り入れ的調整		—	.46 **	.23 **
同一化的調整			—	.49 **
内発的動機づけ				—

\*\* $p < .01$ , † $p < .10$

表2 母親における4種類の動機づけの間の相関係数

	外的	取り入れ	同一化	内発的
外的調整	—	.27 **	-.17 **	-.22 **
取り入乐的調整		—	.41 **	.23 **
同一化的調整			—	.48 **
内発的動機づけ				—

\*\* $p < .01$

表3 父親における4種類の動機づけの間の相関係数

	外的	取り入れ	同一化	内発的
外的調整	—	.32 **	-.14 *	-.15 *
取り入乐的調整		—	.55 **	.35 **
同一化的調整			—	.61 **
内発的動機づけ				—

\*\* $p < .01$ , \* $p < .05$

先行研究にならい、以下の分析では、 $SDI = (2 \times \text{「内発的」}) + (1 \times \text{「同一化」}) - (1 \times \text{「取り入れ」}) - (2 \times \text{「外発」})$  の数式に基づく数値を「自律的動機づけ」の指標とした。

## 2. 親の自律的動機づけ、動機づけ支援と子どもの自律的動機づけの関連

調査内容で示した各項目の平均得点を算出し、子どもの「自律的動機づけ (SDI)」と、母親と父親のそれぞれの「自律的動機づけ (SDI)」、「自律性支援」「関与」「学習支援」「温かさ」の4つの動機づけ支援との相関係数を算出した。その結果を表4に示す。

表4 子どもの自律的動機づけと親の自律的動機づけ、動機づけ支援の間の相関係数

	父 親					母 親				
	SDI	自律性	関 与	学習支援	温かさ	SDI	自律性	関 与	学習支援	温かさ
子どものSDI	.24 **	.20 **	.10 †	.05	.14 *	.31 **	.24 **	.09	.13 *	.19 **

\*\* $p < .01$ , \* $p < .05$ , † $p < .10$

次に、親から子どもへの影響関係を仮定し、共分散構造分析によって検証を試みた。自律的動機づけの形成過程において、親密で信頼できる人間関係があつてはじめて外からの働きかけが力をもつといった指摘がなされていることから (例えば、速水, 1998)、ここでの分析では、「温かさ」から「自律性支援」「関与」「学習支援」へのパスを想定している。影響指標を吟味した結果、「自律性支援」

「関与」「学習支援」「温かさ」については各2項目を用いている。母親と父親のそれぞれについて最終的に得られたモデルの結果を図1、図2に示す。モデルの適合度に関する指標については表5に示しておく。

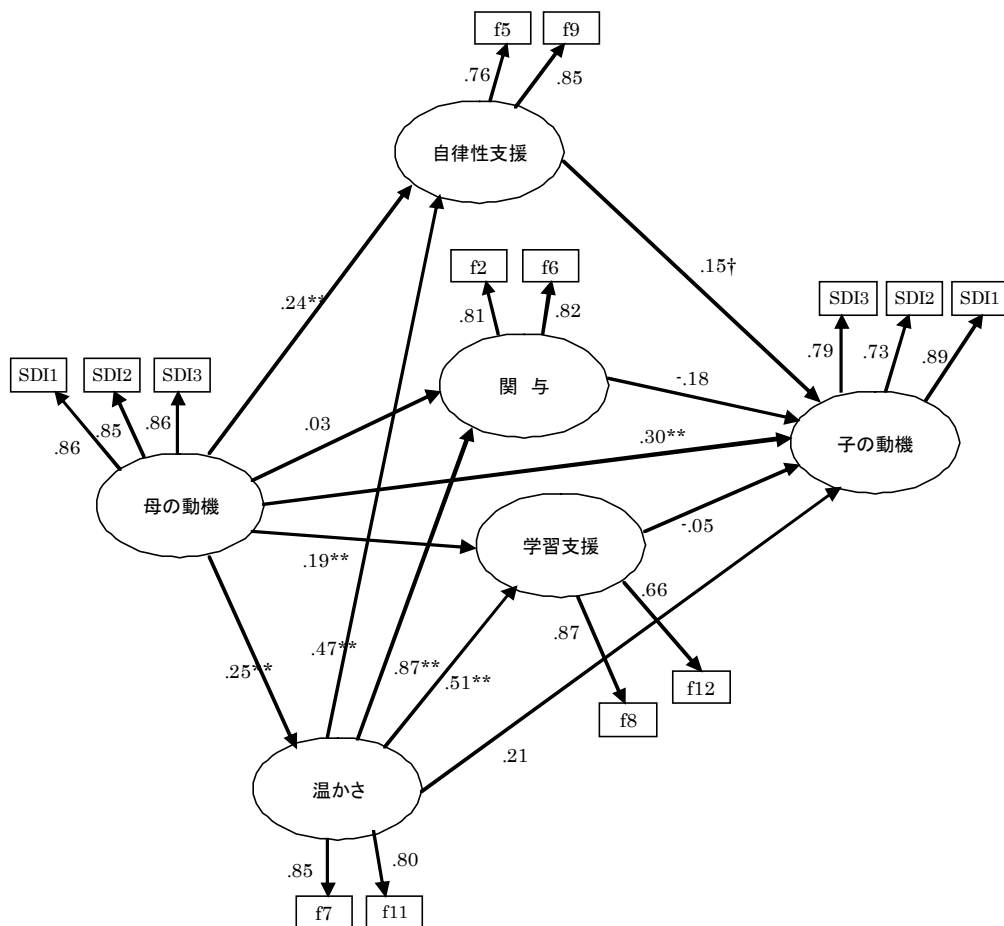


図1 母親の自立的動機づけ、動機づけ支援、子どもの自立的動機づけに関する共分散構造分析結果

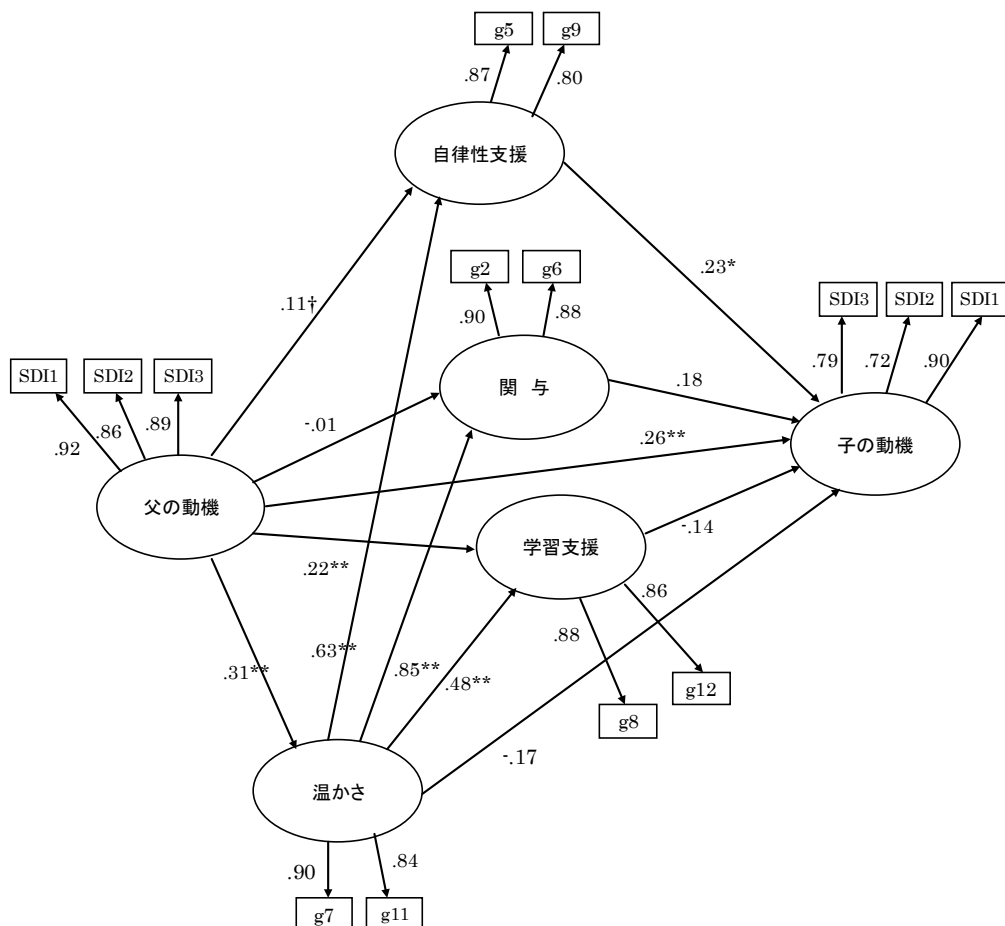


図2 父親の自律的動機づけ、動機づけ支援、子どもの自律的動機づけに関する共分散構造分析結果

表5 母親と父親のモデルの適合度に関する指標

	$\chi^2$	<i>df</i>	<i>RMSEA</i>	<i>CFI</i>
母親のモデル	94.36	65	.04	.98
父親のモデル	100.54	65	.04	.99

先行研究では (Pomerantz, Grolnick, & Price, 2005 など), 親との愛着や親密さが子どもの自律的動機づけや学習への主体的取り組みを促すことが明らかにされてきているが, 本調査では, 親の自律的動機づけスタイルが「温かさ」を規定し, 「温かさ」を介することで「自律性支援」「関与」「学習支援」のすべての働きかけが促され, とりわけ「自律性支援」が子どもの自律的動機づけを規定するという, より詳細な媒介過程に関して1つの示唆を得ることができた。

## 引用文献

- Grolnick, W. S., & Ryan, R. M. (1989). Parent styles associated with children's self-regulation and competence in school. *Journal of Educational Psychology*, **81**, 143-154.
- Grolnick, W. S., Ryan, R. M., & Deci, E. L. (1991). Inner resources for school achievement: Motivational mediators of children's perceptions of their parents. *Journal of Educational Psychology*, **83**, 508-517.
- 速水敏彦 (1998). 自己形成の心理——自律的動機づけ—— 金子書房
- 速水敏彦・田畑 治・吉田俊和 (1996). 総合人間科の実践による学習動機づけの変化 名古屋大学教育学部紀要, **43**, 23-35.
- 岡田 涼・中谷素之 (2006). 動機づけスタイルが課題への興味に及ぼす影響——自己決定理論の枠組みから—— 教育心理学研究, **54**, 1-11.
- Pomerantz, E. M., Grolnick, W. S., & Price, C. E. (2005). The role of parents in how children approach achievement: A dynamic process perspective. In A. J. Elliot, & C. S. Dweck (Eds.), *Handbook of competence and motivation*. New York: The Guilford Press. pp. 259-278.
- Robbins, R. J. (1994). *An assessment of perceptions of parental autonomy support and control: Child and parent correlates*. Unpublished Doctoral Dissertation, Department of Psychology, University of Rochester.
- Ryan, R. M., & Deci, E. L. (2000). Self-determination theory and the facilitation of intrinsic motivation, social development, and well-being. *American Psychologist*, **55**, 68-78.
- 桜井茂男 (2003). 子どもの動機づけスタイルと親からの自律性援助との関係 発達臨床心理学研究, **15**, 25-30.
- Schunk, D. H., & Zimmerman, B. J. (Eds.) (2008). *Motivation and self-regulated learning: Theory, research, and applications*. New York: Lawrence Erlbaum Associates.
- Wild, T. C., & Enzle, M. E. (2002). Social contagion of motivational orientations. In E. L. Deci, & R. M. Ryan (Eds.), *Handbook of self-determination research*. New York: University of Rochester Press.
- Zimmerman, B. J., & Schunk, D. H. (Eds.) (2001). *Self-regulated learning and academic achievement: Theoretical perspectives*. New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates.

## 謝 辞

本研究の調査にご協力いただきました大学生の皆様にご心より御礼申し上げます。研究に関して貴重なご示唆をいただきました中谷素之先生（大阪大学大学院人間科学研究科）、岡田 涼氏（日本学術振興会・名古屋大学）に深く感謝いたします。資料整理を進めるにあたり、愛知教育大学教育学研究科の世良千尋さんと里澤聡洋くんのご助力を得ました。記して深謝申し上げます。

## 付 録

### 自律性支援

1. 私の母親（父親）は、人に言われるのではなく、自分で考えて行動するように、と私に話す。
5. 私の母親（父親）は、私が自分で決断してやっていくことを好ましいと思っている。
9. 私の母親（父親）は、私が決めたことを尊重してくれている。

### 関 与

2. 私の母親（父親）は、私と話をする時間をもってくれている。
6. 私の母親（父親）は、私と一緒に多くの時間を過ごしている。
10. 私の母親（父親）は、時間とエネルギーを費やして私を支えてくれている。

### 学習支援

4. 私の母親（父親）は、私にとって学習がしやすい環境を整えてくれている。
8. 私の母親（父親）は、私の学習の進め方について相談にのってくれる。
12. 私の母親（父親）は、私の学習の手助けをしてくれることがある。

### 温かさ

3. 私の母親（父親）は、私のことをありのままに受け入れてくれている。
7. 私の母親（父親）は、私に対してはっきりと愛情を示してくれている。
11. 私の母親（父親）は、私といると、とても幸せそうである。